保管様式13

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	多摩センターこどもの家
施設所在地	摩市落合1-47ニューシティ多摩センタービル2
法人名	（株）ライフケアサービス

1．活動のテーマ

＜テーマ＞

筋力up!!～遊びを通して身体の動きを促進する機会を作る～

＜テーマの設定理由＞

園庭のない保育園だと毎日近隣の公園に散歩に出ることになり、整備されたコンクリートのアスファルトでは体を伸び伸び動かすジャンプなどは大きな怪我につながるため「やってはいけないお約束」として、子どもたちに話してきた。しかし、発達記録には、段差を降りるとか両足ジャンプなどの項目があり、それを実際に見ることができなかったので、このすくわくプログラムを機に好きなだけジャンプをしたり、山を乗り越えたりなどの活動を保育に取り入れ子どもたちの嬉しそうな顔だけではなく、筋力アップにもつなげたいと、職員全員で思いが一致したためこの設定にした。もともと、保管に場所を取る巧技台がなく、体を動かす運動ができる環境ではなかったので、筋力をつけるためにどんな活動が理想的か、すくわくの活動がないときでも普段の保育に役立てるものは何かを保育者たちで考え、0，1，2歳児がメインの保育園では巧技台ではなく、安全なクッションマットとクッションベンチが不可欠ではないかという答えになった。活動が始まっても、活動の幅や子どもたちの創造力を広げるために「こういうものがあったらいいよね」と常にアイデアが出続けている。

2．活動スケジュール

各クラス、年度が終わるまで月に複数回の実施を計画している。また、計画に入れていない日でも、天候によっては活動計画を変更して急遽主活動にしても良いので、月に最低2，3回は活動していく予定。

3．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ジャンプの着地に失敗しても痛くないクッションマット、段差として活用できるベンチタイプのクッションバーは必須の設定で、そこに滑り台、トランポリン、乳児が渡れる低い平均台、形を変えてトンネルや障害物を作れるソフト素材のブロック、垂直飛びの目標値を自由に設定できる磁石が付く壁紙、飛び石渡りができる玩具などを使用し、活動がマンネリ化せず安全かつ主体的に運動ができる環境を作る。

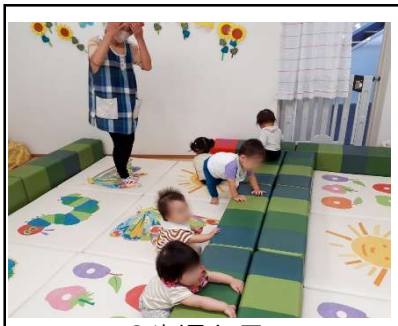
4．探究活動の実践

＜活動の内容＞

初回はマットとベンチだけを置いた部屋で様子を見たが、初めての環境で子ども達が戸惑い、自ら動こうとはしなかったため、保育者がベンチからジャンプをする姿を見せた。そこから、子ども達が動き始め、実施2回目以降はマットとベンチに滑り台やトランポリンを足して、どのように活用するのか様子を見た。今後も新たなアイテムなどを足し、筋力アップや活動の幅が広がるような環境を設定していきたい。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

子ども自ら遊びを考えられるよう、過度な援助をせず導入だけ手伝うよう各クラスが気を付けた。1.2歳児の会話ができる児は、友だちに声を掛けたり、笑いあったりして自然と同じ遊びを楽しむ姿が多く見られた。各クラス、月齢などで小グループに分けたことで、発達に差がなくなるため、それぞれのグループが、同じような動きで楽しめていた。0歳児ではベンチを山に見立ててハイハイで乗り越えたり、1歳児は保育者の手を取りベンチで平均台渡りをしたり、2歳児は仲の良い友達同士で手を繋ぎ「いっせーのせっ！」と言って一緒にジャンプをしたりと自分たちで遊びを考えて楽しんでいた。
子ども達が制限なく自分のやりたい動きができるよう、各クラス少人数のグループに分けて活動した。いつもは制限をかけている動きも、この活動の日は好きな動きで楽しめることを、回を重ねるたびに理解していっていると思う。また、保育者が過度な関わりや誘いを控えることで、子どもが自ら遊びを考え、挑戦する姿を見ることができ、保育者にとっても学びの場となった。


0歳児クラス

1歳児クラス

2歳児クラス

5．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

その日の活動の記録は週日案に残し、各クラス担任がその日のうちに振り返り、危険だった箇所や場面を見直したり、活動の幅が広がるような声掛けや援助などを話し合ったりし、次回の活動につなげて、前回よりもより良い活動ができるようにしている。
毎回同じ設定だと子どもたちも飽きてしまい、主体性のある活動ができなくなってしまうため、目新しい道具や玩具を取り入れていくことも必要だと感じた。
今回危険を感じた場面は、行動を制限するのではなく、その場に保育者を配置するなどして見守り、本当に危険な場合のみ保育者が仲介することで、子どもたちが伸び伸びと活動できると感じた。繰り返しジャンプをするという事は、本当に全身の筋力を使い、疲れるという事が、給食の食べや午睡にもつながっていると証明されたと感じた。
園庭のない保育園でも、体を思う存分動かすことは可能で、筋力を向上させることができるという事がわかり、筋力、体力が向上すると生活の色々な場面でその効果を感じることができるので、もっと回数をこなして実感していきたいと思った。